



校長室だより

Newsletter from the Principal

校長簡訊



「和顔」について ～ 友との協和に心がけよう～

新堀 隆久

本校の体育館には、「和顔」という大きな書が掲げられています。日々目にしている人も多いと思いますが、みなさんはこの言葉にどのような意味が込められていると思いますか。

人は、自分が正しいと思うときほど、相手に強く伝えたくなるものです。「自分は間違っていない」「相手のほうが悪い」など。そう思えば思うほど、声は大きくなり、言葉も鋭くなります。

しかし、振り返ってみると、強い言葉で誰かを本当に変えることができた経験は、どれほどあるでしょうか。むしろ、言われた相手は心を閉ざし、反発し、お互いの距離が広がってしまうことの方が多いように感じます。

仏教には「和顔愛語(わけんあいご)」という言葉があります。穏やかな表情で、思いやりのある言葉をかけるという意味です。相手のことを考え、優しい言葉で接することは、決して自分の考えを曲げたり、言いたいことを我慢したりすることではありません。伝えるべきことを伝えながらも、相手の尊厳を大切にすることです。

学校生活でも同じです。友人との意見の違い、部活動でのすれ違い、SNS上でのやりとり。自分の正しさを主張したくなる場面はたくさんあります。そんなときこそ、「和顔」を思い出してほしいと思います。

正しいと思うことを言うのは大切です。しかし、それ以上に大切なのは、「どのように伝えるか」です。相手を打ち負かすための言葉ではなく、相手と共により良い方向を目指すための言葉を選ぶこと。その積み重ねが、信頼関係をつくり、温かい学校をつかっていくのだと思います。「誰もが明日も来なくなる学校」を目指しましょう！

穏やかな表情や優しい言葉は、すぐに大きな変化を生むものではないかもしれませんが、しかし、誰かの心を少し軽くしたり、勇気づけたり、対立を和らげたりする力を持っています。教員になって30年以上経ちますが、厳しい言葉で人を変えることの難しさを感じる一方で、相手を尊重した言葉が、時間をかけて人の心を動かす場面を何度も見てきました。体育館の「和顔」の書には、「お互いを大切にしながら共に生きていこう」という願いとリスペクトの大切さが込められているのではないのでしょうか。

みなさんも、誰かに言葉をかける前に、「この言葉は相手を傷つけるためのものか、それとも支えるためのものか」と、一度立ち止まって考えてみてください。校訓にも「友との協和に心がけよう」とあります。一人一人の「和顔」が、学校全体をより安心できる場所にしていけるはずです。

「みんなが主役の学校」アンケート



・アンケートがまだの人は協力をお願いします！

(左のフォームから)

・期末考査の準備は計画的に！体調管理にも注意！